

議事録（議事要旨）〔第8回会議〕

1. 日 時 令和元年11月15日（金）13：30～15：40
2. 場 所 福井県庁7階特別会議室
3. 議 題 「福井県教育振興基本計画」の素案について
4. 出席者 進士五十八座長、安達洋一郎委員、荒瀬克己委員、五十川早苗委員、
上田康彦委員、佐々木知也委員、中嶋茂男委員、林正岳委員、吉川雄二委員
豊北欽一教育長、西野里佳教育委員、南部隆保教育委員、原公樹教育委員、
山本直子教育委員、森下典子教育委員

5. 議事要旨

＜議題1＞

- 委員から、施策は豊富にあってよいが、働き方改革の観点から、年度末の報告書の提出等、手続きの簡略化を進めて欲しいとの意見があった。
- 委員から、他県の市教育委員会では、5人の顧問弁護士を雇用し、年360回出勤し、現場が助かったと聞いている。本県でもスクールロイヤーの配置を拡充して欲しいという意見があった。
- 委員から、数値目標が入っておらず、具体性に欠ける。施策の優先順位付けをするとよいとの意見があり、事務局から、計画の本文に数値目標を記載し、施策の重要度がわかるよう工夫すると回答した。
- 委員から、校種ごとにカテゴリー分けすると見やすくなるとの意見があり、事務局から、計画の本文で工夫すると回答した。
- 委員から、競技団体に専属のアスレティックトレーナーを配置したことは、福井国体の最大の取組みであるが、書かれていない。アスレティックトレーナーとスポーツトレーナーの違いを踏まえて、誤解なく書いて欲しいとの意見があった。

- 委員から、NIEは、授業を公開する前に、まず新聞を活用した授業をやって欲しいので、「新聞を活用した授業の公開や研究会を推進」を「新聞を活用した授業や公開授業、研修会を推進」に修正して欲しいとの意見があった。
- 委員から、方針1の「2確かな学力の育成」の「(1)基礎・基本の定着」について、「①学級編成基準の見直し」は条件整備の話なので、②→④→③→①の順番に並び替える。「(2)活用する力」の「③大学入試改革への対応」は、高校でどういう力をつけるのかという点で整理したほうが分かりやすいので、「3魅力ある県立高校づくりの推進」に移動するとよいとの意見があった。
- 委員から、「普通科系高校において、校長のリーダーシップに基づく魅力ある学校づくりを支援」について、若狭高校の取組み等、具体的に書いて欲しいとの意見があった。
- 委員から、「県外・遠方から学生を受け入れる高校の寮などの整備を検討」について、地域の魅力を知ってもらう観点から、民家の活用も検討して欲しいとの意見があった。
- 委員から、「教育支援センターにおいて、ICT教材を用いた学習支援を推進」について、センターに来ることができない児童生徒のため、家庭でICTを活用することも検討して欲しいとの意見があった。
- 委員から、方針5の「3外国人児童生徒に対する教育環境の整備」を「外国人児童生徒等」とし、海外から帰ってきた日本人も対象に入れて欲しいとの意見があった。
- 委員から、「小学校において、『キャリア・パスポート(仮称)』の対象を1～3年生にも拡大」について、小学校から高校まで、どのようにやっていくかを書いて欲しいとの意見があった。
- 委員から、「キャリア教育・職業教育の推進」について、キャリア教育と職業教育は異なるので、誤解が生じないように並列しない方がよいとの発言があった。
- 委員から、ポジティブな考え方やレジリエンスを高める教育は家庭でも必要なので、教員研修に加え、家庭教育でも周知していくことが重要との発言があった。
- 委員から、ストレスチェックの結果を個人に返すだけでは効果がなく、面談して、セルフケアをするためのアドバイスをすることが必要。また、集団分析が十分にされていないとの意見があった。

- 委員から、教員の特別支援の免許保持率が低いので、採用を含め、「若手教員を中心に小・中学校と特別支援学校における人事交流を推進」「特別支援学校の新採用教員を小・中学校の特別支援学級に配置」といった取組みを進めて欲しいとの意見があった。
- 委員から、第2章に「地域コミュニティの衰退」と記載されているが、集落の担い手の育成に係る市町の情報交換の場の提供など、社会教育についても推進して欲しいとの発言があった。
- 委員から、子どもの無限の能力を引き出すためには、一流の洗練された文化芸術を見る、聴く、触れる機会を設ける必要がある。保護者も忙しいので、放課後の時間を活用できないかとの発言があり、事務局から、放課後児童クラブを活用して体験活動を充実させていくと回答した。
- 委員から、「キャリア教育・職業教育の推進」について、企業との連携を進めるのであれば、窓口となる部署をつくって欲しいとの意見があり、事務局から、検討していると回答した。
- 座長から、「第5章 計画の推進と進行管理」について、進行管理ではなく、プロジェクトマネジメントが必要という発言があった。
- 委員から、「魅力ある県立学校づくりの推進」について、どういう力をつけるかを明確にし、生徒や保護者と共有することが重要。その際、教員が学習指導要領を読むことが必要であるとの発言があった。
- 委員から、教員の働き方改革について、教員の意識改革だけではなく、まず、保護者や社会に意識を変えてもらうことが必要であるとの意見があった。
- 委員から、健康診断後の精密検査の受診が十分ではないとの意見があった。
- 委員から、ストレスチェックの結果、高ストレス者と選定されても、医師との面談を希望する者がいないとの発言があった。